

人、サバンナ、ダルマセリカ……  
人気の'70年代日本車を作り倒す!

モデルカーズ3月号 第13巻第4号 平成24年3月1日発行毎月1回1日発行  
自動車模型の専門誌 [モデル・カーズ] 3月号

ホビダス  
www.hobidat.com

2012-3

190

# model cars

アメリカン・モデル・カーズ!  
アメ車キット新製品を振り返る

トをレビューする「今月の1台」  
のフェラーリF10を早速賞味!

MR1/18

458イタリアGT2

見参!



形から大手術まで…  
ポーションを適正化する!

誰もやらない仕様変えに挑む!  
年式・グレード変更の極意とは?

特集] **ココで差がつく、  
0's国産車モデリング**

# M.R.'s Head Line

モデル・カーズ最新ニュース

話題の新製品から特注モデルまで、モデルカーの最新情報を選びすぐってお届け。

## 日本初上陸!! 新春早々イタリアから届いた大物

リ 458 GT2 ■ フェラーリ458 GT2  
クッション1/18 ■ レジン・モデル ■ ¥60,900(税込) ●京商 <http://www.http://www.kyosho.com>

from HATTORI(服部佳洋) co-operation: M.R. Collection Models

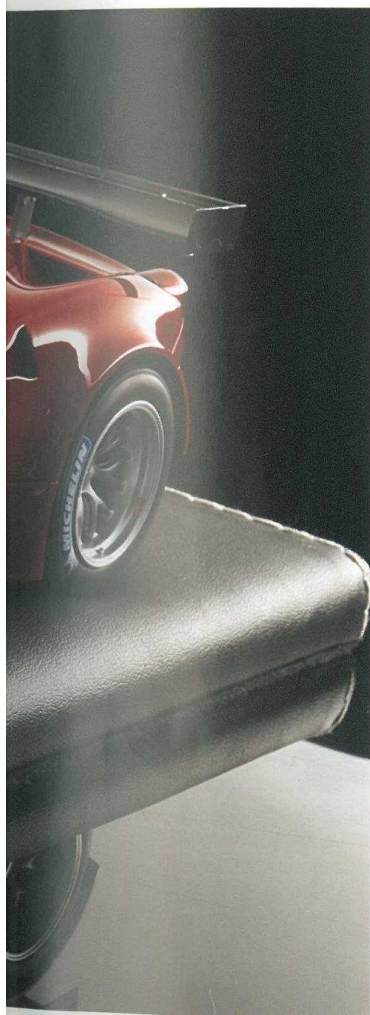


フォーミュラ・マシンやプロタイプ・スポーツなどのレースカーこそが真のフェラーリ。ロードカーを作るのは、そのための単なる資金作りの手段に過ぎない。これは、かつてエンツォ・フェラーリ自身が語ったと言われる、フェラーリのクルマ作りを表す有名なエピソードの一つだが、ではロードカーとして生を受けた歴代のフェラーリがサーキットに現れなかったかと言えば、もちろん答えは否。血は争えないというべきか、カロッツェリアが腕を奮ったエレガントなモデルや一部の4シーター・モデルはともかく、歴代市販GTの多くも、その流麗なボディにコンペティション・ナンバーを纏って、様々なレースに参戦してきたのである。そんなロードカー・ベースのコンペティション・フェラーリは古今枚挙にいとまが無いが、特に昨今ではワンメイク・レース用やサーキット走行専用車輛等、フェラーリ自らが仕立

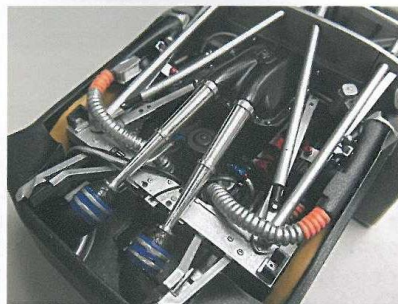
てた辛口モデルも多い。そんな中、現行レギュレーションのFIA GT選手権やアメリカン・ル・マン・シリーズなどに参戦するための戦闘機として、2011年に登場したのがフェラーリ458イタリア GT2 である。

実車はもちろん現行の市販ミッドシップ・ベルリネッタである458イタリアをベースに開発されたマシンで、昨年の実戦デビュー以来期待に違わぬ活躍を見せている。そんな話題の458 GT2は模型の世界でも注目度は高く、各メーカーが競ってモデル化している。そんな中、新年早々いち早く編集部サンプルが届いたのは、お馴染みイタリアのMRコレクションからの試作モデル。オフィシャル・モデルを手掛けたり、プレス発表会で配布するプロモーション・モデルをまかされる等、かねてよりフェラーリとはひとかたならぬ関係を築いて来

た同社だけに、この1/18モデルも、少しでも早く日本のファンに見てもらいたいという強い想いも感じられる。モデルのスケールは1/18で、ボディはレジン製。開閉ギミックは備えないプロポーション・モデルだが、グラス・エアリアから覗く車の出来る室内やエンジン・ルーム内部はもちろん精密に作り込まれている。実車同様、オーバーフェンダーと太いタイヤが四隅に張り出したファットなプロポーションや、同社の伝統的美点の一つと言える艶やかなボディ・カラーなどは、この最新作でも健在だ。赤い化粧箱の中、シックな黒い革の台座に固定された深紅の最新コンペティション・ベルリネッタ。それが実車と縁の深いイタリアのハンド・メイド・モデルとくれば、熱狂的なフェリスタならずとも、思わずそのコレクションに加えたいくなるのではなかろうか。



この製品は、既に一部国内のミニカー専門店等でも予約受付が始まっている。編集部に送ったこのモデルは“very first sample”であり、まだ不完全な箇所も多い。誌面で紹介するにあたり、くれぐれもその点を日本の読者にきちんと伝えて欲しい。といった手紙とともに編集部へ届いた、MRコレクションの1/18フェラーリ458 GT2。同社製品のクオリティをよく知っている本誌読者諸兄であれば、先方の心配はまさに杞憂であろうが、念のため、ボディ・カラーはこの鮮やかなロッソコルサの他、同じ赤でもやや赤色掛かったロッソスクーデリア、ネオオパール（黒）、ピアンコアウス（白）、ジァッコモデナ（黄色）の、全5色がラインナップされる予定。



インパネやステアリング・ホイールにロールバー、エンジン本体に各種補機類、さらに繊細な表情を見せるホイールに至るまで、ほとんどのパーツがレジン製である事もこのモデルの特徴の一つ。あえて過剰なマルチマテリアルとしない事によって、むしろモデル全体の統一感が醸し出されていることが好ましい。この辺のさじ加減はやはり作り手のセンスだろう。ごく初期の試作サンプルとはいえ、すでに全体の佇まいはまさにMRコレクション製品ならではの味わいだ。ちなみに現時点では5色のボディ・カラーのバリエーション展開が予告されているが、ゼッケンやスポンサー・カラーを纏った実戦仕様が発売されるかどうかについては、まだ言及されていない。

